授業科目	法学					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	前期
担当教員	森　敦嗣						
授業概要	「法学」というと普段の自分たちの生活とはあまり関わりのないものと思われがちだ。しかし、そもそも「法」とは人が集まって社会という名の集団をつくるとき、そこに何らかのルールをつくる必要性から誕生したものである。つまり私たちが社会集団の中で生活する以上、「法」はルールとして常に私たちの日常生活に関わりがあると言える。そしてその「法」を対象とした「法学」とは、人がこの世の中で共に生きていくためのルールを学ぶ学問なのである。 この講義では社会のルールである法と、それに関わる具体的な問題とを照らし合わせながら法律に関する基礎的な知識の習得を目指す。授業では、大学生である皆さんの日常生活に法がどのような関わりをもっているのか、具体的な事例と判例を紹介しながら講義していく。さらに「死刑制度」「裁判員制度」といった近年取り沙汰される法律分野に関わる諸制度の是非について皆さんに考えてもらう。 毎回の授業ではテキストと授業毎に配布するレジュメを中心に行う。また成績評価として小テストの実施、映像を観てのレポート記述も適宜実施する。グループワークでは模擬裁判を実施し各グループで裁判の判決をどうするか討論してもらい、判決文を作成してもらう。						
授業形態	講義			授業方法	授業の一部では裁判員制度に関連したグループワークを行う		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1.「法学」に関連する基礎的な知識・用語について理解し、他の人にも説明できる（DP1-1）。 2.「法学」に関連した様々な制度やテーマについて理解する（DP1-1）。
理想的レベル	「法学」に関連する様々な制度や学説、テーマについて理解し、かつ自らの考えを他の人に論理的に説明できる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	60%	
小テスト	20%	グループワークで作成した判決文も小テストの１つとして評価する
レポート	20%	
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	EN10411J T010411J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
毎回の授業前に各回の授業内容に関わる部分をテキストで目を通しておくこと。授業後は配布したレジュメの最後にある授業のまとめを使い、授業で解説した部分やテキストの内容を参照しつつ、授業の内容を確認する。	4

授業計画

第１回	テーマ：イントロダクション

	法学の学習ガイダンス、授業の概要と評価方法について、レポート・論文の基本的な書き方
第 2 回	テーマ：法の分類 成文法と不文法、自然法と実体法、公法と私法、実体法と手続法、法の解釈
第 3 回	テーマ：契約と民法：日常生活と契約 民法の基本原理、契約自由の原則、意思自治の原則
第 4 回	テーマ：不法行為と民法：日常生活とアクシデント 不法行為 4 つの要件、過失責任の原則、制限能力者と未成年の法律行為について
第 5 回	テーマ：犯罪と刑罰 刑法の役割、民法と刑法の違い、犯罪の成立要件、故意犯処罰の原則
第 6 回	テーマ：死刑制度の是非について考える① 死刑制度に関連した映画『休暇』前半の視聴、死刑制度の意義と死刑囚の生活・処遇について
第 7 回	テーマ：死刑制度の是非について考える② 死刑制度に関連した映画『休暇』後半の視聴、死刑制度賛成派、反対派それぞれの主張の紹介、レポート提出①
第 8 回	テーマ：雇用と労働法 若年層、女性、高齢者の近年の雇用について、労働基準法、非正規労働者とそれらに対する労働法、小テスト（予定）
第 9 回	テーマ：家族と民法①：結婚と離婚 婚姻の成立、婚姻による効果と義務、離婚の種類と効果、再婚禁止期間制度と判例の紹介
第 10 回	テーマ：家族と民法②：親子関係 嫡出推定制度と嫡出否認、養子縁組制度、嫡出子と非嫡出子の違いと判例の紹介
第 11 回	テーマ：映画から法的問題を考える① 家族法に関わる映画『そして父になる』前半の視聴、血縁を重視する日本の親子関係について
第 12 回	テーマ：映画から法的問題を考える② 家族法に関わる映画『そして父になる』後半の視聴、レポート提出②
第 13 回	テーマ：法と裁判① 裁判所の種類と役割、裁判員制度と検察審査会について、裁判員制度の賛成派、反対派それぞれの主張の紹介
第 14 回	テーマ：法と裁判② 裁判員として各グループで判決を考える、判決文作成（グループワーク）
第 15 回	テーマ：全体のまとめ 本講義全体の総括、試験対策について
テキスト	池田真朗/編『プレステップ法学〈第５版〉』（弘文堂、2023 年）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	池田真朗・犬伏由子・野川忍・犬塚英朗・長谷部由起子著『法の世界へ〈第 9 版〉』（有斐閣アルマ、2023 年） 阿部昌樹・和田仁孝編『新入生のためのリーガル・トピック 50』（法律文化社、2016 年）
課題に対するフィ	小テストは採点後、返却する。レポートは返却し、内容によってはコメントをつける。試験は成績発表後に回答例を提示する。

ードバックの方法	
学生へのメッセージ・コメント	テキストや配布するレジュメの授業解説した部分の復習を中心に行う事を推奨する。テレビやインターネットのニュースには日頃から目を通し、特に政治・法律関連の情報については内容まで把握しておくことが望ましい。 授業妨害となるような私語や携帯、SNS の使用は厳禁とし場合によっては退室させる。